



期 日	テ ー マ	講 師	内 容
令和6年 4月20日 (土)	北関東の農村荒廃を救った人々 —竹垣三右衛門・岸本武太夫・二宮尊徳—	放送大学茨城学習センター所長 ／特任教授 オノデラ アツシ 小野寺 淳	18世紀中頃から関東・東北地方は冷夏が続き、火山の噴火も多い時代でした。また、干鰯などの肥料の購入も原因となり、農村荒廃が生じました。この復興に越後・越中・加賀などから、浄土真宗を信仰する人々が主に北関東へ移住します。江戸時代後期における農村荒廃を救った人々と浄土真宗移民の北関東移住を紹介します。
5月18日 (土)	幕末水戸藩を襲った感染症	茨城大学人文社会科学部 教授 ソエダ ヒトシ 添田 仁	幕末の水戸藩をパンデミックが襲いました。はしかとコレラが同時に大流行したのです。江戸時代の人びとは、目に見えない脅威にどのように対処したのでしょうか。そして、流行り病は、当時の人びとのくらしや考え方にどのような影響を与えたのでしょうか。感染症との戦いの歴史を通して、幕末社会の特徴についてお話します。
6月15日 (土)	文化資源としての茨城の「民俗芸能」とその課題	実践女子大学文学部 美学美術史学科 准教授 クシダ キヨミ 串田 紀代美	かつて郷土芸能と総称されていた日本各地の伝統的な歌や踊りは、文化財保護法制定後に文化財行政が整うと「民俗芸能」と呼ばれ、その中から「無形民俗文化財」が誕生していきました。本講演では、茨城県の民俗芸能を概観しつつ、次世代への継承を見据えた取り組みや「文化財」から「文化資源」への価値転換について考えます。
8月17日 (土)	戦国時代の佐竹氏と常陸国の領主層	大正大学文学部 教授 ササキ ミチロウ 佐々木 倫朗	現在の茨城県北部を拠点とした佐竹氏は、戦国時代の後期に関東地方の北部と東北地方の南部に大きな影響力を振るいました。その佐竹氏が、同じく茨城県に勢力を持っていた小田氏や大塚氏等の領主層と、どのような関係を持っていたのかを解説します。
9月21日 (土)	在宅看取りを考える —人生の終末をより良く過ごすために—	放送大学茨城学習センター 客員教授 茨城キリスト教大学看護学部 教授 マエダ カズコ 前田 和子	人生100年時代を迎えています。一人ひとりがかけがえない人生を、自分の希望によって決め、悔いなく満足をもって終わりたいというのが万人に共通する思いでしょう。いつかは来る死。住み慣れた地域で「最期まで暮らしたい」「看取ってあげたい」という願いをかかなえるために、在宅看取りについて一緒に考えてみませんか。
10月19日 (土)	心を使って考えるということ	放送大学 教授 (心理と教育コース) マルヤマ ヒロト 丸山 広人	考えるということは、ふつう「頭を使って」行うものです。しかし、カウンセラーとして仕事をしていると、いくら頭を使って考えても、なかなか答えが出せないことが世の中には多いということに気づきます。そのような時、カウンセラーはどうしているのか。それを「心を使って」考えるというテーマでお話したいと思います。
11月16日 (土)	戦後日本の団体旅行 —旅の大衆化とその移り変わり—	神奈川大学国際日本学部 教授 ヤマモト シノ 山本 志乃	「団体旅行」と聞くと、旗を持ったガイドに連れられた、主体性のない旅行者の集団、といったイメージが思い浮かぶ。しかし、旅行機会そのものがまだ少なかった時代にあつて、団体旅行は誰もが安全に旅を体験できる貴重な手段でもあった。日本の文化的所産ともいべき団体旅行の変遷を、とくに戦後の高度経済成長期を中心に考えてみたい。
12月21日 (土)	2050年の未来から考えよう —未来カルテと未来ワークショップ—	芝浦工業大学 地域共創基盤研究センター長 兼 建築学部 教授 クリシマ ヒデアキ 栗島 英明	地域を持続可能なものにするために、我々は今から何に取り組むべきでしょうか？現在の延長線上にある地域の2050年の姿を投影する未来カルテと、それをを用いて2050年の地域の未来から今から取り組むべきことをバックキャストで考える未来ワークショップについて紹介し、参加者に実際にミニワークショップを体験していただきます。
令和7年 2月15日 (土)	水戸城 —中世から近現代まで—	水戸市教育委員会 歴史文化財課 副参事 セキグチ ノリヒサ 関口 慶久	水戸城は土造りの平山城としては国内有数の規模を有する中～近世城郭です。近世には御三家水戸藩の居城として水戸藩の政治的中枢となり、県都水戸市の誕生につながりました。本講演では、こうした水戸城をめぐる中世・近世・近現代の歴史と、その構造や特質について、文献史学・考古学等の最新成果をもとに解説します。
3月22日 (土)	スイスの山と日本の山 —UとVが生み出す自然環境・人間生活・ツーリズムの特色を比較する—	茨城大学教育学部 特任教授 筑波大学 名誉教授 マツオカ ノリカズ 松岡 憲知	氷河がつくったスイスの山と流水がつくった日本の山を比べると、器の形がU字とV字とで大きく違います。この器の違いが自然景観・植生・農牧業・集落地・登山や観光のスタイルなどの違いを引き起こしています。さらに、気候温暖化が山の景観や人間生活を大きく変えようとしています。バーチャルな巡検を通じて、二地域の違いや変化を考えましょう。

放送大学教授等による講演会を開催します。各分野の最新的话题を聞くことができる
またとない機会です。ぜひ御参加ください。
※都合により日程・会場・内容等が変更になる場合があります。



時間 14:00 ~ 16:00

会場 茨城県立図書館 視聴覚ホール

主催

放送大学茨城学習センター

茨城県立図書館

お問い合わせ

水戸市文京2-1-1 茨城大学水戸キャンパス内
tel:029-228-0683

水戸市三の丸1-5-38
tel:029-221-5569